

Kasamatsu Shirō -the Last Shin-hanga Prints Artist

没後30年記念

笠立松紫浪 —最後の新版画—

2021年

2月2日火→3月28日日

前期・2月2日火→25日木

後期・3月2日火→28日日

※前後期で全点展示替え

開館時間 10時30分→17時30分（入館17時まで）

休館日 2月曜日、2月26日（金）→3月1日（月）※展示替えのため

入館料 一般・1000円／大高生・700円／中学生以下無料
※会期中2回目以降ご鑑賞の方は半券のご提示にて200円割引
(他の割引との併用不可)

「春の夜一銀座」
渡邊木版美術画舗蔵
(前期) [部分]

知られざる新版画・笠松紫浪の画業に迫る



①



②



③



④

笠松紫浪（一八九八～一九九二）は、鎌木清方の門人として日本画を学び、大正八年（一九一九）、渡邊庄三郎から依頼されて新版画を刊行しました。その後、十年以上の空白を経て、昭和十七年（一九三二～四一）には、東京のモダンな都市の風景や、温泉地の風情を描いた風景画を刊行。戦後は渡邊庄三郎から離れ、昭和二十七～三十四年（一九五二～五九）、芸艸堂から版画作品を刊行します。新版画の初期から関わり、戦後も、絵師、彫師、摺師の協同作業による版画を発表し続けたという意味で、紫浪は「最後の新版画家」であると言えるでしょう。

新版画は、近年注目が集まり、特に川瀬巴水や吉田博については、大規模な展覧会が開催されています。一方、紫浪は、巴水の風景画と作風が類似しているためか、その陰に隠れてしまい、掘り下げて紹介されることはほとんどありませんでした。

紫浪は、令和三年（二〇二二）に没後三十年を迎えます。本展は、それを記念して、紫浪の新版画の全貌を紹介いたします。大正から昭和にかけて制作された版画作品約一三〇点（前後期で一点点展示替え）の展示となります。最後の新版画家・笠松紫浪が捉えた、モダンでどこか懐かしい風景を、どうぞ堪能ください。

没後30年記念

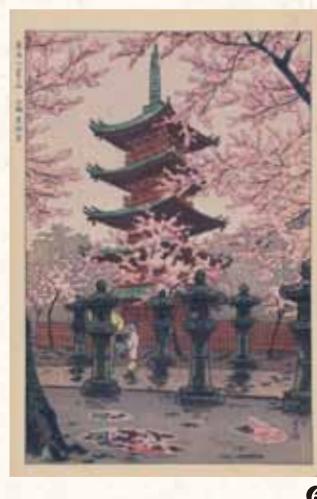
笠松紫浪

——最後の新版画

「新版画」とは、大正から昭和にかけて、絵師、彫師、摺師の協同作業によって制作された木版画のことです。版元である渡邊庄三郎が提唱し、伊東深水や川瀬巴水、吉田博、小原古邨といった絵師たちによって、新しい時代に見合った版画藝術が次々と生まれました。



⑤



⑥



⑦

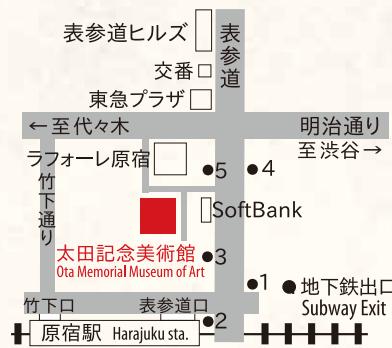


⑧

- ①「霞む夕べ—不忍池畔」渡邊木版美術画舗蔵（後期）②「浅草觀音堂大提灯」渡邊木版美術画舗蔵（前期）
- ③「春の夜—銀座」渡邊木版美術画舗蔵（前期）④「下田の街」渡邊木版美術画舗蔵（後期）
- ⑤「箱根湯本の春宵」芸艸堂蔵（前期）⑥「東京八景の内 上野東照宮」芸艸堂蔵（後期）
- ⑦「越後柏崎」芸艸堂蔵（後期）⑧「東京タワー」芸艸堂蔵（前期）

【アクセス】JR山手線 原宿駅（表参道口）より徒歩5分
東京メトロ千代田線・副都心線 明治神宮前駅（5番出口）より徒歩3分
【問合せ】050-5541-8600（ハローダイヤル）
【公式サイト】<http://www.ukiyo-e-ota-muse.jp/>
【公式twitter】@ukiyoetea

*新型コロナウイルス感染防止対策のため、予告なく予定を変更することがございます。また、入場および観覧に際し、制限・制約やご協力ををお願いする場合がございます。ご来館の前に、当館ウェブサイトやハローダイヤルにて最新情報をご確認ください。



太田記念美術館

OTA MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 1-10-10